

ヒナが親鳥の背によく乗っている。



カイツブリ鳥

池や川にすみ、水中で潜って魚などを食べる。「キリ、キリ、キリ」と鳴く。カモよりは小さい。ハクビの大きさ。

ダイグラボッチと白幡沼

白幡沼には「夢池(ゆみいけ)」という別名があります。昔、ダイグラボッチという巨人が雨の日にぬかるみで滑って転び、そのまま所かくぼへで池に落ちてきたという伝説によります。地形的には、台地の南側を流れていた古入間川の自然堤防により谷の出口に土砂がたまって沼が出来たと考えられます。昭和、別所沼、見沼、与野沼、馬沼、川口の上谷沼なども同じように出来たと考えられます。

別所遺跡

別所遺跡(別所)は、縄文以降、能登や越前や川内時代にかけて、多くの人が住んでいた。今も住居跡や土器が見つかるといわれています。この遺跡は古墳時代に土葬が流行する前に築かれたとされています。

白幡沼の生き物

カイツブリ、バンアオウギ、ミシロアマガキ、ギンヤマトモ、ゴキウキ、シオカサネ

白幡沼の植物

ヤブガラシ、カマスイレン、ヨシキショウブ、ヨシ原

文清斎高

白幡古墳群。新沼農業協会の敷地には、カマスイレンの古墳の跡が確認されています。今は古墳の跡が確認されています。古入間川沿いに古墳が多いです。

藤原秀郷と白幡

藤原秀郷は千代田(徳川の武将)で、白幡、大百足巻、伝説があります。天慶(貞観時代中期)、平将門を討ちました。その時に白幡の地に落ちた矢が集

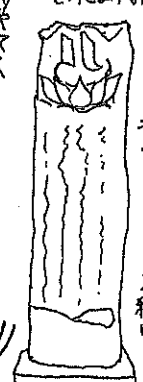


めたといわれています。

その際に八幡社と関係し、白幡と関係したことから、白幡といふようになったとされています。矢を集めたところから、古入間川に流れる白幡は、船によって運搬するに違いないと集積地があったのかも知れません。

医王寺の板碑

高さ2.4m。上部と下部が無くなっていて、元々は4mくらいの高さだったと推定されています(309年)の銘がある。この板碑は、この地域にはあまり見られない。板碑は縁石と比べると、縁石は石の塊で、板碑は板状の石である。



白幡本宿遺跡

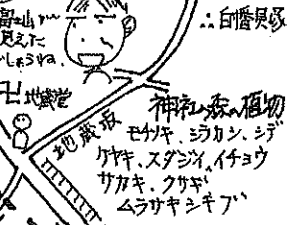
白幡本宿の遺跡は、戦国時代の城や遺物の跡がみつかります。詳細はわかりませんが、不明です。

白幡本宿

文白幡中

白幡鹿神社

明治時代末に、富士社の境内に鹿神社(10社)が建てられ、白幡鹿神社と名前がつけられました。八幡社もこの地にあり、神社の森は、市の天然記念物になっています。



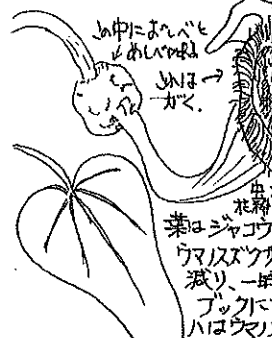
川が曲がる所は外側が流れが速くなります。そのために、流れに削られて外側のほうが深くなります。深くなると、船が揺られるので、外側には、船が揺られるのを防ぐために、石を積み上げて防波堤を作ります。

すごい白幡!

自然も歴史も見所いっぱい。2022年5月25、29日調査 小川 浩

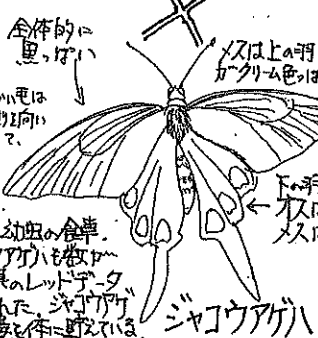
ウマノスズクサ

馬の鈴草 ウマノスズクサ科。土の草がフスフスとした音で鳴く。夏には花が咲き、その花の形が鈴の形に似ている。葉の形が馬の顔の形に似ている。鈴の音に似ている。毎年。



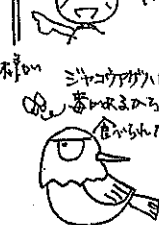
道端の植物

アサギアゲハの幼虫の食草。ウマノスズクサもアサギアゲハの食草。アサギアゲハはウマノスズクサの葉を食べる。



ウマノスズクサ

ウマノスズクサの葉は、アサギアゲハの幼虫が食べる。アサギアゲハはウマノスズクサの葉を食べる。



弾正屋敷

現在、白幡公園がある場所は、戦国時代には豊臣氏の家臣宇田川弾正の屋敷があったとされています。豊臣が流れる古入間川の自然堤防にあり、西側は大きな湿地で、自然と生じた防壁ができる地帯です。弾正の屋敷は、自然と生じた防壁に囲まれていました。弾正の屋敷は、現在も残っています。

